

前立腺癌の治療においてロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術を受けられた患者さんのアンケート内容を用いた医学系研究に対するご協力をお願い

当院では、ご病気で入院・通院された患者さんの情報を用いた以下の医学系研究を実施しますので、ご協力をお願いいたします。本研究にあたっては、京都市立病院臨床研究倫理審査委員の承認及び病院長の許可のもと、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針及び法令を遵守して患者さんのプライバシー保護に留意して実施します。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「⑬お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出くださいますようお願いいたします。

① 研究課題名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術後患者の性機能の実態についてのアンケート内容の集計による評価
② 研究実施期間	2025年9月16日から2026年4月30日まで
③ 対象となる方	2013年9月1日から2023年8月31日までにロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術を受けられた方でアンケートに了解頂いた720名の患者様。
④ 研究実施機関 及び研究責任者	研究責任者：清川 岳彦 泌尿器科、部長 分担者：阿部 眞也 泌尿器科
⑤ 本研究の意義、 目的、方法	<p>【研究の意義・目的】本邦と海外では前立腺癌の手術における性機能温存についての考え方が異なる。海外では性機能に関わる神経（勃起神経）を積極的に温存しており、大体5割から7割の手術で温存するとされている。本邦の多施設共同研究による大規模研究では34%で温存していると報告されている。本邦において、術後の性機能についての報告は少ないため、本邦における術前後の性機能の変化と性行為の傾向について把握することを目的とする。また、手術内容と術後の性機能の関連性についても検討する。</p> <p>【研究の方法】術前と術後に性機能と排尿機能に対するアンケートを任意で実施。その実施済のアンケート結果をまとめ、術前後での性機能と排尿機能の傾向、変化を評価する。また、神経温存症例と非温存症例における、腫瘍断端陽性率など、手術内容と神経温存との関連についても評価する。</p>
⑥ 使用する資料・情報 及び協力をお願い する内容	年齢・性別・病歴・家族歴などの基本的な疾患情報、病理診断、疾患の転帰、治療に必要な画像データ、アンケート内容を利用する。
⑦ 臨床研究倫理審査 承認日	2025年9月16日
⑧ 研究計画書等の 閲覧等	本研究計画書及び研究の方法に関する資料は、他の研究対象者等の個人情報、知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては「⑬ お問い合わせ」にご連絡ください。
⑨ 結果の公表	第113回日本泌尿器科学会総会（2026年4月開催）で公表します。

⑩プライバシーの保護について	本研究で取り扱う患者さんの情報は、個人情報すべてを削除し、第三者にはどなたのものか一切わからない形で使用します。
⑪研究の資金源	この研究に費用はかかりません。
⑫利益相反	本研究を実施するにあたり、開示すべき利益相反はありません。
⑬お問い合わせ	<p>本研究に関する質問や確認のご依頼は、以下へご連絡ください。</p> <p>また、本研究の対象となる方又はその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）から、情報の利用や他の研究機関への提供の停止を求める旨の申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も以下へのご連絡をお願いいたします。</p> <p>研究責任者：清川 岳彦 京都市立病院泌尿器科、部長</p> <p>〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1の2</p> <p>TEL：075-311-5311(代) 平日 8：30～17：15</p>